

# たよ可



<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo>

E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成29年2月10日 発行

伊勢市教育研究所 (伊勢市桜木町 55-1)

## 平成28年度 学びのグレードアップ総合推進事業(教育研究所版) 研究委託校の取り組みを報告します

### 地域の歴史学習に係る実践研究

研究委託校：有緝小学校

公開授業研究会：平成28年12月6日(火)

授業者：6年3組担任 山村 勝人先生

単元：総合的な学習の時間「わたしたちのまち 河崎」

助言者：歴史資料作成委員会助言者 松村 勝順 先生



研究報告される山村先生

伊勢市は、豊かな自然や文化、歴史に恵まれたまちです。伊勢志摩サミットの開催は、子どもたちが世界に目を向けるきっかけになり、また自分たちの地域の良さを見直す機会ともなったことでしょう。郷土を知り、郷土を誇りに思うことは、子どもたちに豊かな心を育み、地域の一員としての自覚を養うことにつながります。

伊勢市教育研究所では、本年度、「地域の歴史学習に係る実践研究」を有緝小学校に委託し、取り組んでいただきました。公開授業研究会では、6年3組担任の山村勝人先生が、総合的な学習の時間(単元：「わたしたちのまち 河崎」)の授業公開と研究報告をしてくださいました。

#### 【有緝小学校6年生の取組】

歴史教材『ふるさと 伊勢』を活用しながら伊勢市の歴史について学習した子どもたちは、校区にある「河崎商人館」を訪問しました。そこで展示物を見たり、河崎の歴史について話を聞いたりするうちに、疑問やもっと調べてみたいことが出てきました。子どもたちは、一人ひとりテーマを決めて河崎のまちを歩きはじめました。そして、河崎のまちに古くから残っているもの、写真や年表などの資料、地域の方へのインタビュー等により、調べ学習を進めていきました。その中で、「まちづくり」を進める地域の方々と出会い、河崎のまちに対する様々な思いを知りました。

調べ学習では、タブレット型端末も効果的に活用されました。子どもたちは、タブレットを持ってまちに出かけ、写真やインタビュー動画を撮影しました。写真や動画には、子どもたちが自分でコメントを書き込み、学びの足跡として残すとともに、他の子どもたちと共有し合ったり、発表したりすることで、協同的な学びにつながったということです。

公開授業ではこれまでの学習をもとに、「どうして河崎には、他にない古いものが残されているのか」ということについてみんなで話し合い、河崎のまちづくりに取り組んでいる方々の努力や思いについて考えました。

山村先生は、指導案に次のように書いています。

河崎のまちを学ぶことで、地域の歴史を知るだけでなく、河崎の伝統的な街並みを守っていかうとする人々のつながりや、思いにも触れることができると考える。河崎のもつ価値は、重ねてきた歴史を大切にし、まちづくりを進めていることだと考えている。河崎の歴史に目を向け、受け継がれてきた価値を知ることで校区への興味関心を深め、郷土への愛着を育むことができる。さらに伝統的なまちなみを大切にしようとする人たちの運動を知ること、まちの現在の課題を考え、まちの未来を考えるきっかけにできると考える。



「河崎商人館」西山さんから河崎の歴史について聞きました

河崎の歴史をよく知る地域の方との「まち歩き」の様子



惣門があったとされる環濠跡、山田羽書の換金場所、船着き場跡、庚申堂、道標など、昔の名残がある所を中心に案内していただきました。

### 【子どもたちが調べて感じた「まちの特徴」より（一部）】



- ・他のまちにはないものが、河崎には残っていると思った。
- ・河崎の家は昔の家が多くあり、受けつがれている。
- ・河崎は空き家などを無くして、なるべくまちなみをくずさないようにしている。
- ・まちなみがきれいな理由は、みんながまちなみを大切にしているからだと思った。
- ・洪水対策では、川の横にあるのは大変だと思いましたが、川があるからこそ、人がくるんだなと思った。今では河崎にしかないものがあつたりと、とても良いところに生まれてよかったなと思った。昔ならではのものを、これからも残していけたらいいなと思った。
- ・みんなで河崎のまちを守っていこうという気持ちがあつて、すごいと思いました。

### 【公開授業研究会参加者アンケートより（一部）】

- ★自分たちのまちを、自分たちの足で調べ、多くの気づきや発見があつたと思います。何より、たくさんの地域の人たちとの出会いができたことは有意義であつたと思います。児童の感想にもありましたが、「このまちに生まれてよかった」、この一言がとても印象に残りました。
- ★自分たちにとって身近な河崎のまちについて、様々な視点から調べ学習を行うことを通して学ぶ取り組み、とても素晴らしいです。（中略）子どもたちが、自らの調べ学習で取り組んだ内容を、授業でがんばって発表していた姿も、印象的でした。これから、この学習がどのように発展していくかが、とても楽しみです。
- ★子どもたちが住む地域の理解や愛着をもつための授業であり、山村先生の熱意が伝わってくる授業でした。子どもたちにとって、将来、それぞれの人生を歩んでいく中、地元へ愛着や誇りをもつことの大切さを学びました。また、ICTの活用で、タブレットを利用することにより、児童の意見の集約や、発表を苦手とする児童にとって自己表現をする場にもなることも学び、今後にも活用してみたいです。

### 河崎のまちの歴史

河崎は、勢田川の水運を活かした問屋街として知られ、特に江戸時代からは参宮客を支える物資の集積地、問屋街として栄えました。現在でも軒を連ねた古い町家や商家の蔵、特徴的な伊勢のまちなみが残っています。

昭和49年の七夕豪雨をきっかけに、勢田川の河川改修が行われ、川幅が拡幅されることになりました。勢田川右岸の蔵や町家は取り壊されましたが、その後、河崎のまちなみや景観を残すための運動が行われ、古くからの蔵やまちなみは、一部残されることになりました。

## 社会科副読本の活用に係る実践研究

研究委託校：宮山小学校

公開授業研究会：平成 28 年 12 月 8 日（木）

授業者：3 年 A 組担任 山本 幸加 先生

3 年 B 組担任 二村 有希 先生

単元：社会科「蓮台寺柿をもっと知ろう」

助言者：社会科副読本資料作成委員会助言者 西 良孝 先生



選果場を見学する子どもたち

伊勢市教育研究所では、毎年、社会科副読本資料作成委員会に御協力いただき、社会科副読本『わたしたちの伊勢市』を改訂しています。そして平成 27 年度からは、研究委託校による「社会科副読本の活用に係る実践研究」の公開授業研究会を開催し、地域学習の取り組みの成果を報告していただいています。教育研究所では、社会科副読本『わたしたちの伊勢市』が子どもたちにとって、より身近でわかりやすいものになるように、本研究を活かしています。

本年度は、宮山小学校に研究委託を受けて取り組んでいただきました。そして、12 月 8 日（木）、3 年 A 組担任の山本幸加先生、3 年 B 組担任の二村有希先生が、社会科の授業（単元：「蓮台寺柿をもっと知ろう」）を公開してくださいました。

昭和 33 年に、伊勢市の天然記念物として指定された蓮台寺柿は、宮山小学校校区で広く栽培されています。社会科副読本『わたしたちの伊勢市』では、第 2 章「伊勢市ではたらく人びと」（2）「田や畑ではたらく人びとの仕事」において、蓮台寺柿をつくっている農家の仕事を取り上げています。

授業は、子どもたちが見学や体験を重ねるなかで見つけてきたこと、疑問に思ったことを大切にし、話し合ったり、調べたりする活動を中心に進められてきました。

公開授業研究会では、子どもたちから出された疑問にそって、各クラスそれぞれに本時の目標が設定されました。

### 【3 年 A 組】

（本時の目標）

柿農家の仕事の中で最も大変だという「消毒の仕事」について知っていること、調べたいことを挙げ、5 月から 9 月までの長期間、暑い中で繰り返す消毒作業の意味を考え、その仕事の大切さを知ることができる。

子どもたちは、副読本に掲載されている「柿づくりカレンダー」や写真、これまで学習してきたことをもとに、課題について話し合いました。また、ゲストティーチャーとして教室に来ていただいた柿づくり農家の方から、お話を聞かせていただきました。

そして、昔の農薬と比べ現在使用しているものは弱くなっており、薄めて使用しているため、散布回数が多くなることや、病気や害虫から守るため消毒は欠かせないことなどを理解するとともに、農家の方が、誇りを持って蓮台寺柿を出荷していること、美味しく、大きく、立派な柿をつくるために、一年中色々な世話をし、努力していることに気付いていきました。





### 【3年B組】

(本時の目標)

柿農家の年齢層をあらわしたグラフからわかることを話し合い、柿農家の現状を知り、自分たちの考えを話し合うことができる。

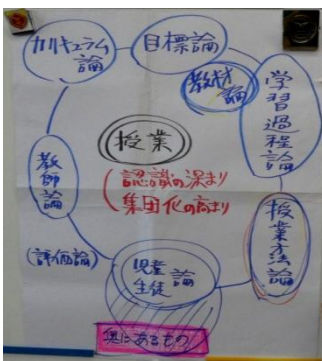
子どもたちは柿農家や選果場で働く人たちとの出会いを通して、昔から大切に育てられている蓮台寺柿について、見たことや調べたことをまとめながら学習を進めてきました。そして、柿を育てるには一年中仕事があり、大変世話がかかることを知りました。また、大変だけれども柿を育てることに喜びを感じているという、おじいさん、おばあさんに出会いました。

そこで、二村先生は、柿農家の高齢化、後継者問題に子どもたちの目を向けさせたい、出会った柿農家の方には高齢者が多かったこと、誰かが守っていかないと蓮台寺柿が途絶えてしまうことなど、伊勢市の天然記念物である蓮台寺柿の「農家の現状」と「これから」を知る機会としたいと考えました。そして、子どもたちにとって今まで当たり前のようにあった蓮台寺柿がたくさんの人に守られ育てられていること、その当たり前を守っていくために、自分たちに何ができるのか、柿農家や自分たちの住んでいる町で働く人たちとの出会いを通じて、子どもたちと一緒に考える機会としていきたいと願い、本時を設定されました。



### 参加者アンケートより

- ★副読本を使っの授業の進め方がわからなかったの、とても勉強になりました。地域とつながるということが大事だと、改めて感じました。
- ★子どもたちの発言から、自分たちの地域の特産物である蓮台寺柿を誇りに思っている発言が聞かれ、よかったと思います。継続して地域学習に取り組んでいる学校の強みを感じました。
- ★子どもたちが熱心に学んでいる姿が見られ、蓮台寺柿のことが好きなんだろうなあと感じられました。自分の地域について知る、地元のことを好きになっていくことにつながっていくと思いました。
- ★子どもたちが、地域で生活している方から直接学ぶことができる教材があるのは、素晴らしいことだと思う。人と会うことで子どもたちが深く学んでいる姿を見せていただき、とても感銘を受けました。
- ★子どもたちの疑問や感じたことから学習課題を設定して、授業が進められていて、大変素晴らしいかったです。西先生のお話、わかりやすくとても良かったです。



助言者の西先生から、「授業づくり」についてお話をさせていただきました。



脱渋庫（上）や選果場（左）の見学。子どもたちは、「ひなたやけ」や柿羊羹づくりにも取り組んだそうです。